

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立巖木小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<p>・新型コロナウイルスの影響を受けて3年目となった今年度も、活動を制限せざるを得ない場面があった。しかし、昨年の方針と同様、「どう工夫して行か」を中心的に据え、様々な対策や工夫をしながら子どもたちにとっての「今年しかないこの一年」を乗り切るものにするために、みんなで知恵を出し合いながら進めてきた。このことは無駄なく効率的に最大限の教育効果を目指す新たなスタイルとして確立させることができ、その成果は大きいものとなった。</p> <p>・学校を教職員主導で動かすのではなく、教職員は黒子となり、いかに児童自らが進んでいるように意識をもたせることで、学校に活気があふれ、児童の自信に繋がっている。本校はその体制ができおり、6年生がリーダーとなって学校を引っ張っている。年度末に近づくと、特に5年生が「次は自分たちが学校を動かす番だ」という意識を強くもって活動している。この活動は今年度も確実に実践でき、伝統となって受け継がれている。</p> <p>・校内研については、外国語教育に取り組んで5年目となった。今年度は「自ら考え伝え合う言語活動の在り方」「学びに生かす評価の在り方」「地域や身の回りのことなど身近な素材を生かした教材開発」について研究を進めた。来年度は、これまでの研究を生かして引き続き外国語教育の更なる充実を目指し、取り組んでいきたい。</p> <p>・「学校大好き」「家庭大好き」「地域大好き」の児童を目指し、教育活動を行ってきた。来年度も地域と共にある学校、地域の期待に応えられる学校となるよう努めていきたい。</p>		
2 学校教育目標	豊かな心を培い、夢に向かって、主体的・創造的に活動する子どもの育成 ～ふるさとを愛し、人に優しく、一人一人が伸びる学校 巖木小学校～		
3 本年度の重点目標	1 児童の意欲を高め、思考力、表現力、判断力を育む指導の工夫	2 きめ細やかな指導と児童の学習習慣の確立	3 心の教育（一人一人を大切に人権教育）の深化と充実
	4 地域人材の活用と地域での体験活動の推進	5 校内研究・職員研修の充実及び勤務時間を意識した働き方改革の推進	

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	最終評価		学校関係者評価				
			達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○唐津の学びスタイルチェックシートに示した学びの実現状況が2.5以上の教師80%以上	具体的取組	A	・学びスタイルチェックシートに示した学びの実現状況が2.5以上の教師は100%であった。今後唐津の学びスタイルチェックシートを活用するとともに、研修を重ねながら個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指していきたい。	A	・先生方は、児童の実態や課題を共通理解して学習指導に取り組まれている。学びスタイルチェックシートに示した学びの実現状況が2.5以上の教師が100%であるので、目標が達成されている。		
	○GIGAスクール構想の中で展開させる、主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫と家庭学習習慣の確立	○話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできていると答える児童85%以上 ○児童アンケートで「家庭での学習時間(10分×学年+20分)を集中して取り組めた」と答える児童の割合80%以上		A	・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、全教科半分以上の時間で、話し合う活動と振り返り活動を行う。振り返り活動で出た児童の感想を次時の学習活動に生かす手立てを取る。	A	・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、話し合いや振り返り活動を行っている職員は、100%であった。また、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできている児童は95%であった。話し合い活動を有効に活用している児童が多く見られた。家庭での学習時間を達成している児童は87%であった。時間だけではなく、学習内容の充実も図られた。	A	・適切に指導されて、目標が達成されている。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権教室に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	具体的取組	A	・道徳や人権教育に関するアンケートにおいて、「学んだことを生かしている」と回答している児童が90%に達している。来年度は、11月の「おひさま委員会」に取り組み、担当者による視察・心構えに訴えかける資料提供がなされた。定期的な情報交換会議以外に必要な生徒指導・特別支援会議を開き、対応にあたった。	A	・道徳や人権教育、平和教育等の取り組みが充実している。児童のアンケート結果から、目標は十分達成できていると思う。		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめについて組織的対応ができていると回答した教職員85%以上		A	・Q/Aアンケートを実施し、その結果を生かした指導を行う。・学期に1回の生活アンケートの実施と活用。・定期的な「友達アンケート」を実施し、実施後の丁寧な聞き取りと指導を行い、結果を全職員で共通理解する。支援が必要な児童については全職員で対応する。	A	・児童への聞き取りなどの早期対応により深刻でない事案に発展することはなかったことが成果としてあげられる。・児童への丁寧な聞き取りと職員間での共有を継続していきたい。	A	・いじめ問題については、特に重大な問題は発生しておらず、小さい問題も早期対応され、組織的に対応されている。これらからも子ども一人一人の思いに寄り添い、問題点を共有して指導してほしい。
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	具体的取組	B	・キャリアパスポートを活用した教育活動の研修を行い、実践していく。・実行委員会形式、児童委員会による児童会行事を行い、児童の主体性を育む活動に取り組む。	B	・児童アンケートにより「将来の夢や目標をもっている」に肯定的な回答をした児童83%であった。今後、学級活動と学校行事を関連させながら、目標をもて取り組み、事後の振り返りも確実にすることで、児童の活動への充実感が生まれるよう取り組んでいきたい。また、地元出身者で地域で活躍している方を招聘して話を聞くなどの活動を仕組み、将来の夢を見つめるきっかけとなる学習を計画的に実施したい。	B	・アンケートでは、肯定的な回答をした児童が多いが、「いいところやがんばっているところをほめられたり、認められたりしている」の質問に対して、「ほめられていない」と答えた児童には、重要視して丁寧に対応していただきたい。・実行委員会形式による学校行事や児童会行事、児童委員会による授業づくりが行われ、児童の主体性を育む活動に積極的に取り組んでおられる。
	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童生徒60%以上		B	・体育的行事や縦割り班活動を通して、「運動が大好きな子ども」を育てる。・運動能力向上につながる動きや遊びを授業の中で児童に紹介し、休み時間にも取り組めるような環境を提供する。	B	・児童アンケート「授業以外で、運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上ある」と答えた児童は55%と目標をほぼ達成した。外遊びをする児童が多く見られた。こまぎれな時間においても外遊びをしていることが運動につながっていることを知らせ、啓発することも必要であると感ずる。・のびのび遊びや校内持久走記録会、縄跳び大会などの体育的行事を実施したことで、学校での運動する機会を提供することができた。	A	・昼休みや15分休み時間は、外遊びをしている児童が多い。体育大会・マラソン大会・縄跳び大会等が実施されたことで、休み時間に運動する児童も多く、目標は達成できている。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○望ましい生活習慣の形成	○家庭で約束したスマートフォン・ゲーム時間の遵守と「早寝・早起・朝ごはん」の習慣が身に付いた児童80%以上	具体的取組	A	・授業において睡眠やスマートフォン・ゲーム時間を守ることを大切さを伝える。・生活アンケートを定期的に実施し、規則正しい生活習慣の意識を高める。	A	・スマートフォン・ゲーム時間を守っている。まあまあ守っている合わせて87%であった。ゲームなどの使い方について意識することができるようになった。あまり守れていない。守れていないと答えた児童が13%いるので、今後も指導を続けていきたい。・帰途、早寝、早起はほとんどの児童が身に付けていると回答した。児童は87%と前より高くなっており、規則正しい生活習慣の意識が高まった。	A	・今後も規則正しい生活習慣が身に付くよう、家庭と協力して指導していく必要がある。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。		A	・毎週金曜日を定時退勤日とする。・時間外勤務時間等を定期的に振り返りながら、勤務の適正化がよりよい教育効果に繋がることが伝え、タイムマネジメントの習慣化を図る。・ICTの活用を積極的にし、業務の効率化を図る。	A	・金曜日は、定時退勤を意識して業務を進める姿や声掛けが見られた。業務の割合で、別曜日にも定時退勤する職員もいた。・1ヶ月の経過勤務時間は45時間を超えなくなりました。勤務時間の適正化を進めることができた。・ICTの活用が進み、児童や保護者への各種アンケート等の活用で、業務の効率化を図ることができた。	A	・定時退勤日ではない曜日で1週間のごくわずか必ず定時退勤できていなければならない。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○職員の仕事の健康	○本校独自に設定したストレスサイン10項目のうち、該当するものが2項目以下の職員80%以上 ○年間年休取得14日以上を目指し、パースデー年休の完全取得	具体的取組	A	・定期的にチェックを行う。・心身の不調を防ぐために、コミュニケーションを大切に、ケアの充実を図る。・年休取得について呼びかける。	A	・本校独自に設定したストレスサイン10項目のうち、該当するものが2項目以下の職員は、83%で目標数を達成した。なんらかのストレスを感じる職員もおり、コミュニケーションを図ることで職員の心身の健康を守ることができるよう心がける。	A	・ストレスチェックアンケートの結果から、一部の項目でストレスを感じておられる職員もおられるが、ごく少数の人数・項目であるので、目標は十分達成されている。
	○職員の仕事の健康	○本校独自に設定したストレスサイン10項目のうち、該当するものが2項目以下の職員80%以上 ○年間年休取得14日以上を目指し、パースデー年休の完全取得		A	・定期的にチェックを行う。・心身の不調を防ぐために、コミュニケーションを大切に、ケアの充実を図る。・年休取得について呼びかける。	A	・本校独自に設定したストレスサイン10項目のうち、該当するものが2項目以下の職員は、83%で目標数を達成した。なんらかのストレスを感じる職員もおり、コミュニケーションを図ることで職員の心身の健康を守ることができるよう心がける。	A	・ストレスチェックアンケートの結果から、一部の項目でストレスを感じておられる職員もおられるが、ごく少数の人数・項目であるので、目標は十分達成されている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	最終評価		学校関係者評価				
			達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
○地域人材の活用と、地域での体験活動の推進	○積極的に地域人材の活用をし、地域での体験活動の推進する中で育む、ふるさとを愛する心と主体的・創造的に活動できる力	○地域の方々から見た児童の活動に関して肯定的な回答90%以上(アンケートで)	具体的取組	A	・感染防止対策を徹底した上で、授業参観などを地域の方々にも開放し、児童の学習風景を参観してもらい、そして感想をアンケートに記載してもらい、それを基に学びを充実させる手立てを工夫していく。・地域の存在や参観の効果を発表する機会を設け、学んだことについての考えや思いを伝える。	A	・地域の方や組織との多様な交流により、地域の自然や文化並びに米、蕎麦の農業を中心とした各産業に対する講義・体験活動がなされており、教育目標達成に向けて尽力されている。・地域サンキュー会では、子供達の頑張っている姿を見ることができ、全校でしっかり歌うことができてよかった。		
	○校内研究・職員研修の充実	○研究テーマに沿った研究の充実及び教員の専門性の向上		○外国語教育の進め方に関する専門性が向上した教員90%以上	A	・外国語教育に関するアンケートで「評価及び言語活動の充実を柱とした研究の推進を学年初めに授業研修などを通じて行っている」で肯定的な回答をした職員が100%で、目標数を達成した。・これまでの授業実践、計画的な研究授業、講師招聘の研修などで、評価や言語活動の充実について研修を積み上げてきたことが、職員の外国語教育の指導力向上につながった。	A	・教職員のアンケート結果から、「やや当てはまる」も含まれれば、100%の教職員ができていると回答されており、外国語教育の専門性の向上について、目標が十分達成されている。	
○特別支援教育の充実	○支援体制の確立と教員の専門性や意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員85パーセント以上	具体的取組	B	・特別支援に関する研修会の実施(夏休み)・ケース会議の開催、毎月1回の生徒指導協議会での意見交換などについて共通理解・外部機関との連携(SC, SSW)	A	・特別支援に関する研修会の実施(夏休み)・ケース会議の開催、毎月1回の生徒指導協議会での意見交換などについて共通理解・外部機関との連携(SC, SSW)	A	・外部機関や保護者と連携を図って、学校全体でよく取り組んでいられる。今後も、更なる研修や工夫を続けてほしい。
	○特別支援教育の充実	○支援体制の確立と教員の専門性や意識の向上		○特別支援に関する専門性が向上した教員85パーセント以上	B	・特別支援に関する研修会の実施(夏休み)・ケース会議の開催、毎月1回の生徒指導協議会での意見交換などについて共通理解・外部機関との連携(SC, SSW)	A	・特別支援に関する研修会の実施(夏休み)・ケース会議の開催、毎月1回の生徒指導協議会での意見交換などについて共通理解・外部機関との連携(SC, SSW)	A

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育			
5 総合評価・次年度への展望	<p>・児童委員会による児童会行事を行い、児童の主体性を育む活動に取り組んでおり、児童自らが学校を動かしているように意識をもたせることで、学校に活気があふれ、児童の自信に繋がっている。6年生がリーダーとなって学校を引っ張っている。年度末に近づくと、特に5年生が「次は自分たちが学校を動かす番だ」という意識を強くもって活動している。この活動は、来年度の新しい巖木小学校でも生かしていきたい。</p> <p>・校内研究については、外国語教育に取り組んで6年目となった。今年度は、これまで研究してきたことを踏襲し、「自ら考え伝え合う言語活動の在り方を探る」「自己評価と見取りを学びに生かす授業づくり」について研究を進め、授業実践をした。これまで積み重ねてきた「巖木小学校スタイル」の授業実践を続けていくことで、子どもたちの力をよりいっそう伸ばすことができると考える。</p> <p>・「学校大好き」「家庭大好き」「地域大好き」の児童を目指し、地域、家庭と連携を図りながら、教育活動を行ってきた。来年度統合して、新しい巖木小学校となるが、さらに地域と共にある学校、地域の期待に応えられる学校となるよう努めていきたい。</p>		